

本年度の重点目標

- ・地域の学校や関係者の方々との交流や共同・協働学習の推進に努める。
- ・ICT活用研修会等の開催や積極的かつ効果的な活用に努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教職員一人ひとりの資質向上をはかり、相互協力のもと教育内容、指導の充実に努めている。			
	地域自治会などとの良好な関係のもと、地域に開かれた学校を目指している。			
2 教育課程・学習指導	個々の児童生徒の障害特性等に応じたきめ細かな指導を行っている。			
	キャリア発達を促し、地域の特性を生かした教育課程の編成に努めている。			
3 生徒指導	生活年齢に応じた社会的マナーの定着ができるよう指導に力を入れている。			
	児童生徒が楽しく安全に学校生活を送れるよう、いじめを見逃さない指導を実践している。			
4 進路指導	進路先や福祉制度等の情報提供や生徒の実態に合わせた進路指導に取り組んでいる。			
	卒業後の地域生活へのスムーズな移行のために関係機関との連携を深め計画的に支援会議を行っている。			
5 保健・安全指導	大規模災害を想定し児童生徒の安全に配慮した取り組みを行っている。			
	健康な生活を送るための生活習慣の確立に努めている。			
6 人権教育	児童生徒一人ひとりを大切に、お互いが人として尊重し合う人間関係形成に努めている。			
	授業や特別活動の時間を利用して、いのちの大切さや人との関わりを学ぶ機会を設けている。			
7 環境教育	地域の自然や環境を大切にする態度や生き方の育成に努めている。			
	校舎内外の清掃や整理整頓に心掛け、清潔で安全な環境づくりに努めている。			
8 交流及び共同学習	さまざまな人とのふれ合いを通して、生活経験を広げ、自立できる力を育てている。			
	学校内外での授業や行事を通して、地域の人々との交流を行っている。			
9 教職員の現職教育	特別支援教育についての専門的な力量を高めるための研修に積極的に参加するよう努めている。			
	ICT活用研修会等の開催や授業公開などを通して教員相互の研鑽に努めている。			
10 センターの機能の発揮	地域の保育園や幼稚園、小・中・高等学校の求めに応じ、適切な支援を行える教員を派遣している。			
	適正な就学のために必要な支援に努めている。			
11 その他学校の取り組み	家庭や校区内市町との連携のもと児童生徒の安全・安心につながる取り組みを進めている。			
	学習発表会や授業を広く地域関係機関に公開するよう努めている。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。